



平成18年度表彰

☆優秀作品表彰：新神戸トンネル有料道路(蠡期)事業

神戸市道路公社

新神戸トンネル有料道路は、神戸市の中心部と北部地域を連絡するとともに、阪神高速北神戸線などとネットワークを形成する一般有料道路である。本事業は、既設の延長8kmのトンネルを1km延伸し、新たな出口を設置して、出入口の分散化による交通渋滞の緩和と地下化による環境改善、また神戸北部地域から神戸空港までの神戸市中央都市軸の充実・強化を目的としている。

本事業は、重要な鉄道営業線（JR神戸線、阪急神戸線）直下において、道路トンネルを築造する工事であり、列車の運行に影響を与えないことが絶対条件であった。この鉄道の安全性を確保する工法について関係機関と検討を重ねた結果、導坑掘削によるアンダーピニング工法を採用した。工事着手前のFEM解析による変位量を予測し、計測管理を実施しながら施工した結果、管理基準を超えることなくトンネルを築造することが出来た。

また、トンネル供用後は、出入口が分散化されたことにより交通渋滞が緩和されたほか、大型車両がトンネルを利用することにより平面道路の環境改善が表われており、当初の目的が達せられている。

さらにトンネルの供用開始後は、平面道路を一部廃止して公園として再整備し、公園・河川・道路が一体となった河川緑地軸の整備を行っている。この計画案については、地域住民とともにワークショップを開催して作成した。平常時は水に親しめる快適空間として、災害時には避難場所や復旧基地などの防災拠点としての活用が期待できる。

以上の観点から、新神戸トンネル有料道路（Ⅱ期）事業は、道路の利便性の向上や周辺環境の改善が期待できることにより、本事業に関する設計手法や施工方法を通じて土木技術の発展に大きく貢献するとともに、事業を通じて地域が活性化していくものと期待される。

【新神戸トンネル有料道路の概要】

道路規格 第3種第2級、設計速度60km/h

車線数	南行2車線、北行2車線
供用開始	昭和51年（北行）、昭和63年（南行）
交通量	16,000台/日

【蠡期事業の概要】

事業延長	1 km
事業期間	平成9年1月～平成18年12月
事業費	489億円
供用開始	平成18年2月8日（南行）、 平成18年3月30日（北行）
施工方法	開削工法、NATM、アンダーピニング工法

